

第3次農林水産業元気再生戦略 平成29年度の取組み実績と課題（重点）

【戦略1】多様な人材が活躍できる農業経営の実現

新たな担い手育成確保支援プロジェクト（P1）／農業トップランナー育成・発展プロジェクト（P2）

【戦略2】水田農業の収益性の向上

県産米ブランド化戦略プロジェクト（P3）／需要に応じた米生産対策推進プロジェクト（P4）／
水田農業低コスト化基盤整備促進プロジェクト（P5）

【戦略3】「園芸大国やまがた」の実現

山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト（P6）／園芸作物大規模集積団地推進プロジェクト（P7）

【戦略4】県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化プロジェクト（P8）／県産農産物等販路拡大プロジェクト・県産農産物等輸出拡大プロジェクトほか（P9）／有機農産物生産拡大・ブランド化プロジェクト（P10）

【戦略5】畜産業の競争力強化

地域で支える畜産クラスター推進プロジェクト（P11）／やまがたの和牛増頭加速化プロジェクト（P12）／
県産飼料生産拡大プロジェクト（P13）

【戦略6】「やまがた森林ノミクス」の推進

再造林推進プロジェクト（P14）／県産木材率先利用プロジェクト（P15）／
林工連携推進プロジェクト（P16）

【戦略7】水産業のさらなる振興

海面漁業生産基盤強化プロジェクト（P17）／県産水産物付加価値向上推進プロジェクト（P18）

【戦略1】多様な人材が活躍できる農業経営の実現

新規就農者の更なる確保・育成や地域農業を牽引するトップランナー・スーパートップランナーの育成、多様な人材が総活躍できる農業経営の実現を目指していく。

(1)-① 新たな担い手育成確保支援プロジェクト

【目標指標】

目標指標	現状値	H29目標値	H32目標値
新規就農者数(4年間累計)	1,095人 (H24~27)	340人 (単年度)	1,400人

【29年度の取組み】

＜これまでの取組み＞

○新規就農者の確保・育成対策

新規就農者の動機付け、就農準備、就農初期の各段階に応じたきめ細かな支援を継続して行っている。

- (動機付け) ・首都圏就農相談会への参加(7/23)
- ・県内就農相談会の開催(山形市7/23、鶴岡市7/29)
- ・農業短期体験(5月～)
- ・新規就農者向けパンフレットの作成・配布 など

- (就農準備) ・国の農業次世代人材投資資金(準備型)や県独自の独立就農者育成研修事業等による研修支援 など

- (就農初期) ・国の農業次世代人材投資資金(経営開始型)や県独自の独立就農者定着支援事業等による就農定着支援、農業用機械等導入支援 など

○農地と技術の一体的継承の推進

今年度から、農業者と市町村・JA等からなる農業研修生受入協議会等が行う「離農を検討している熟練農業者から新規就農者へ農地と技術を一体的かつ円滑に継承するモデル的な取組み」に対する支援を行っている。

(事業主体) 農業研修生受入協議会等(寒河江市、河北町、朝日町、大江町、村山市、高島町、長井市、鶴岡市)

(補助対象) 新規就農者への農地と技術の一体的継承のための取組みに要する経費

(補助対象期間) 3年間

(スケジュール)

H29	H30	H31	H32～
離農者等の状況把握 農地の確保(借受け) 農業用機械の導入 離農希望者の確保 短期農業研修(園地)	研修 (農地の出し手 農家等による 技術指導)	研修 (農地の出し手 農家等による 技術指導)	新規就農者の 独立

＜今後の取組み予定＞

○新規就農者の確保・育成対策

- ・就農PR活動のための首都圏等で開催される就農相談会への参加(仙台12月、東京2月)
- ・農業短期体験の実施(継続)
- ・国及び県による就農準備、就農直後の経営確立のための支援、農業用機械等導入支援(継続)

○農地と技術の一体的継承の推進

- ・事業主体のフォローアップ



【評価と課題】

○新規就農者の確保・育成対策

- ・新規就農者の確保・育成のための動機付けから就農までのきめ細かな支援により新規就農者は着実に増加
- ・新規就農者の離農率は約1割程度で全国の新規学卒者の離職率(高卒約4割、大卒約3割)より低い
- ・産業全体で人手不足が生じていることから、新たな担い手を確保するため、動機付けとなる情報発信の強化が必要

○農地と技術の一体的継承の推進

- ・就農希望者が熟練農業者から農地と技術を一体的に継承するため、今年度から県内8地域で事業実施
- ・さらなる新規就農者の確保を図るため取組み地域の拡大が必要

【戦略1】多様な人材が活躍できる農業経営の実現

新規就農者の更なる確保・育成や地域農業を牽引するトップランナー・スーパートップランナーの育成、多様な人材が総活躍できる農業経営の実現を目指していく。

(2)-① 農業トップランナー育成・発展プロジェクト

【目標指標】

目標指標	現状値	H29目標値	H32目標値
トップランナー数	957経営体(H27)	—	2,000経営体
スーパートップランナー数 ※トップランナーの内数	128経営体(H27)	—	260経営体
販売金額1,000万円以上の家族経営体数	2,351経営体(H27)	3,200経営体	3,500経営体
販売金額3,000万円以上の組織経営体数	199経営体(H27)	400経営体	550経営体

【29年度の取組み】

<これまでの取組み>

○トップランナーの育成支援

経営発展や法人化に意欲的な農業者を対象とした研修会や専門家アドバイザー派遣、農業用機械等の導入に向けたオーダーメイド型助成など、ソフト・ハード両面を合わせた重層的な支援を行い、トップランナーの育成を推進している。

- ・農業経営発展支援協議会及び農業経営支援チーム・実践チームの設置・運営(6/14)
- ・トップランナー支援対象者リストの取りまとめ及び経営支援フォローアップカルテ作成
- ・専門家アドバイザー派遣によるトップランナーの育成に向けたビジネスプラン策定等を支援(5月～ 支援件数:22回(20経営体))
- ・専門家の助言によるビジネスプラン策定と一体となったオーダーメイド型助成による経営発展支援(採択件数:17件)

○スーパートップランナーの育成支援

経営管理能力やリーダーシップなどを習得するための「やまがた農業経営塾」やオーダーメイド型助成などにより、企業的経営を実践するスーパートップランナーの育成を推進している。

- ・「やまがた農業経営塾」の創設
(塾長) 東京大学大学院生命科学研究科教授 中嶋康博 氏
(受講生) 14名
(研修期間) 7/18～2/9(12日間)
(研修時間) 70時間(12日間)

主なカリキュラム内容	
経営管理	リーダーシップ論、財務・労務管理等に関する講義・演習
現地視察	企業的な農業法人等の視察
マーケティング	商品開発、6次産業化等に関する講義・演習 商談会への出展による実践研修
事業計画	事業計画・経営戦略に関する講義・演習

- ・オーダーメイド型助成による経営発展支援(採択件数:2件)

<今後の取組み予定>

○トップランナーの育成支援

- ・支援対象者への専門家アドバイザー派遣等による経営改善・発展に向けた支援(継続)
- ・オーダーメイド型支援による経営発展の取組みに対する補助(2次採択 12月)



○スーパートップランナーの育成支援

- ・やまがた農業経営塾の運営(修了2/9)
- ・オーダーメイド型支援による経営発展の取組みに対する補助(2次採択 12月)

【評価と課題】

○トップランナー・スーパートップランナーの育成支援

- ・農業経営支援チームにおいて、支援対象者をリストアップし、ビジネスプランの策定やオーダーメイド型助成により経営発展を支援
- ・地域農業を牽引する競争力の高い経営体を育成するため、引き続き、支援対象者のリストをもとに、農業経営支援チームによるソフト・ハード両面が一体となった支援が必要